

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立高椋小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

家庭・地域・学校協議会(高椋の教育を考える会)は、次の12名により構成する。

- ・地域代表(6)
地区長会長 コミュニティセンター長
地区青少年育成会長 地区有識者
校医代表 民生児童委員代表
- ・家庭代表(3)
PTA会長、副会長(2)
- ・学校代表(3)
校長 教頭 教務

地域コーディネーター(4名)

- ・高椋コミュニティセンターセンター長
- ・たかむくのまちづくり協議会 会長
- ・たかむくのまちづくり協議会 歴史文化部会 部会長
- ・たかむくのまちづくり協議会 前会長

(2) 協議会の内容

- 開催回数 年2回
- 開催日程
第1回 6月27日(木)
第2回 2月13日(木)
- 協議内容
・スクールプラン、学校状況、学校年間計画、研究方針等の協議
・学校評価(児童、教員、保護者)についての報告と協議、次年度への課題
※第2回協議会は、学校保健委員会と合同で行った。

(3) 協議会における成果と課題

学校の現状や課題についての理解が深まり、地域の方々が熱心に関係機関に働きかけてくださったこともあった。例えば、協議会のなかで要望した舟寄新の横断歩道の付け替え工事が終了し、児童が安全に登下校できるようになった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・まちづくり協議会の方による出前授業や稲刈り体験などを通して、社会科や総合的な学習の時間での学びを発展させ、日本人の主食である米作りの大切さや課題とその解決策について考える。
- ・石墨慶一郎博士の偉業について学び、まちづくり協議会の取り組みを知ることで、コシヒカリのふるさとである高椋地区への愛着を深める。

(2) 活動の実際

①「日本の食と米」発表会 (12月6日)

10月3日の出前授業を終えて、児童が追究したいと考えた内容は多岐にわたった。そこで、学級をといて3つのグループを作り、発表会に向けて準備を行った。

Aグループは、日本の農業や食の状況を報告し、食料自給率の低さや農業人口減少などの課題について発表した。地域のスーパーマーケットで地元の方が作った野菜を調べたり、農業に携わる家族へのインタビューで米作りの楽しさややりがいを知ったりしたことを伝



えることができた。

Bグループは、Aグループの課題を受けて、食料自給率を上げるための方策としての和食の見直しについて発表した。食育の出汁の授業で学んだ内容や学校栄養士へのインタビューを生かして、さまざまな和食のよさを伝え、米を中心とした和食をとることを提案した。

Cグループは、石墨敬一郎博士の生涯とコシヒカリが誕生するまでを中心に発表した。また、博士が生み出したコシヒカリの特性や、コシヒカリがもとになってさまざまな品種が生まれていることも伝えた。

発表はA、Bグループはおもに模造紙や画用紙を使って、Cグループはプレゼンテーションソフトを使ったスライドを使って行った。

②お米の販売会 (12月6日)

発表会終了後、収穫したお米とまちづくり協議会からいただいたお米の販売会を行った。お米のパッケージには、児童が考えたステッカーを貼った。高椋地区がコシヒカリのふるさとであることを伝えるもの、米の大切さや米食を呼びかけるものなど、さまざまなステッカーが作られた。当日は5年生の保護者を中心に、まちづくり協議会のみなさんやふだん学校がお世話になっているボランティアのみなさんが多数訪れ、用意した米は完売した。収益金で各学級に大縄跳び用のロープを購入した。



用意した米は完売した。収益

(3) 地域コーディネーターの活動概要

①石墨慶一郎博士についての出前授業 (10月30日)

まちづくり協議会の大霜徹夫さんを講師に、「石墨慶一郎博士とコシヒカリ」の授業を行った。コシヒカリの特性、コシヒカリの誕生秘話、「コシヒカリの父」石墨慶一郎博士の生涯などについて、スライド資料を使って教えていただいた。また、まちづくり協議会のみなさんに用意していただいて、福井県が生んだ新旧ブランド米であるコシヒカリといちほまれの食べ比べを行った。



②稲刈り体験

J A花咲ふくい青壮年部のみなさんの協力で、稲刈りの体験を行った。(田植えも予定していたが、天候が悪かったため実施できなかった。)



(4) 特に工夫した事項

- ・保護者だけでなく、出前授業でお世話になったまちづくり協議会の方や、ふだん学校がお世話になっているボランティアの方に来ていただくことで、自分たちが学んだことや感じたことを伝えるという目標をもたせて取り組ませた。
- ・米について学んだことを伝えながら自分たちがかかわった米の販売をして、収益金で購入した物を全校児童に贈ることで、働く喜びや達成感が感じられるようにした。

(5) 成果と課題

- ・高椋地区出身の偉人である石墨慶一郎博士の業績や、博士が生み出したコシヒカリが日本の農業に果たした功績について詳しく学ぶことで、高椋地区に対する誇りと自分たちの力で地域や日本を良くしていきたいという思いを児童がもつことができるようになった。

(様式3)

- ・社会科の学習で日本の農業の課題について学んでいたが、今回の学習によって、一人ひとりが農業や米について考えを深める良い機会になった。
- ・稲刈り体験によって、収穫の喜びを感じ、米作りの苦勞、とくに昔の米作りの大変さについて考えることができた。
- ・コシヒカリが高齢地区と深い関わりをもつ米であることを呼びかけながら、自分たちが収穫に関わった米を販売し、学校全体に喜んでもらえる物を買うことができたことで、働く喜びや達成感を感じることができた。